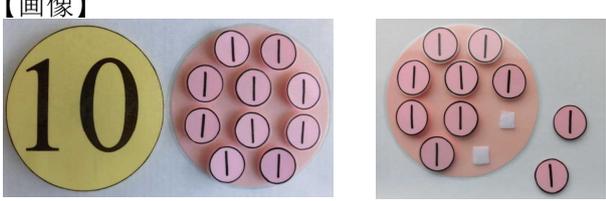


教材・支援機器活用実践事例

【繰り下がりのある2桁の筆算の計算の仕方 が分かりやすくなる教材】

	実施年度	平成28年度	
授業について	教科名等	算数	
	単元・題材名	「ひき算のひっ算」	
	授業における教師のねらい	○ 繰り下がりのある2桁の筆算の計算の仕方を理解することができるようにする。	
	授業における子どもの目標	○ 繰り下がりが必要な場合が分かる。	
子どもについて	学校・学級・学年	小学校 通級による指導 低学年	
	対象の障がい	自閉症スペクトラム	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かること、得意なことには取り組もうとするが、集中を持続させることは困難である。 ○ 間違いを訂正することに、強い抵抗がある。 ○ 繰り下がりのない筆算の計算でも、機械的に繰り下げの印をつけて計算し、混乱してしまう。 	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	くるりん変身！お金カード	<p>【画像】</p>  <p style="text-align: center;">表面 裏面 裏は取り外し自由</p>
	活用のねらい	○ 繰り下がりの意味理解を助けることができるようにする。	
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材（位やお金）の配色は、教科書と同一にする。 (混乱を避ける視覚的配慮) ○ 操作の前後が、一目で分かる仕組みにする。 (集中への配慮) ○ 児童の操作が容易なしかけにする。 (不器用さへの配慮) 	
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り下がりの⑩の表記の意味理解が進み、機械的に繰り下げてしまうことがなくなった。 ○ 操作と筆算形式を対応させながら、意欲的に計算練習に取り組むことができた。 ○ 十進位取りのイメージが深まり、次に学習する3けたの数の筆算にも生かしていくことができそうである。 	